



ふくろうの郷

施設長だより

令和8年2月号

『変化』

最近、コーヒーにハマっています。お気に入りのショップから豆を取り寄せ、挽いて淹れるのが朝のルーティーンになりました。

若い頃にも同じようなことをしていましたが、子育てや仕事に追われるようになると、趣味として楽しむだけの時間や気持ちの余裕がなくなっていったんですね。月日が経ち、最近になってようやく再開しました。

始めの頃は、量販店で売っている豆の中から自分なりに厳選して飲んでいました。ところが、個人の専門店を巡るようになると、「このお店の、この豆（単一銘柄）の、この焙煎が美味しい」と、だんだんこだわりが強くなってきました。

先日、久しぶりに量販店でお気に入りだった豆を手に入れ、いつものように淹れてみたところ、「こんな味だったかな……」と、味の感じ方が変わっていることに気づいたんです。

少しだけ値段の高い豆を買うようになったことで、リーズナブルな豆が以前ほど美味しく感じられなくなる。（普通に飲みますけどね、笑）

この変化が良かったのか、悪かったのか。
正直、少し複雑な気持ちです。

新しいものを知ること自体は、きっと良いことなのでしょう。でも、それまで「良い」と思っていたものが、ある日を境に自分の中でランクを下げてしまうという現実もある。

施設長としては、「もっと自分を高めろ」と職員に伝えています。ただ、このコーヒーの話になると少し別でして、どこかで自分なりのゴール、「ここまでにしよう」という線を引き、その範囲で幸せな時間を楽しめているなら、それはそれでいいのではないかとも思うのです。

…とはいえ、知的好奇心が膨らむと、なかなか止められません。
日に日に道具とコーヒー豆の袋が増えていく現状です（笑）。

「知識は増えても、物は増やすな」
今の私の教訓です（涙）。

自分が変わると、見える景色も変わってきます。
介護の現場でも、教育の現場でも、子どもやお年寄りへの見え方は確実に変わってくる。そして、その変化を「面白い」「嬉しい」と感じられるようになったとき、やっと一人前と呼ばれるのかもしれない。

米井